

令和4年度 家庭教育オピニオンリーダー研修① 実施報告

実施日：令和4年8月17日（水）

第1回目は、Zoomを活用し、オンラインで研修を実施しました。

○ 開講式

○ 説明「とちぎの家庭教育支援施策と家庭教育オピニオンリーダーの活動について」

栃木県教育委員会事務局生涯学習課 副主幹 針谷 英子

まず前半は、近年の社会の変化に伴い生じてきた家庭教育・子育て上の課題や、それらの解決に向けた家庭教育支援の必要性等、本県の家庭教育をめぐる状況についての確認がありました。

後半は、本県の家庭教育支援施策と、家庭教育オピニオンリーダーに関する説明、その養成研修や修了者の活動の様子についての紹介がありました。受講者は、研修を修了した方々が「栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会」を組織していること、また、各市町において地域に根ざした家庭教育を支援する活動を、継続して行っていること等を学びました。

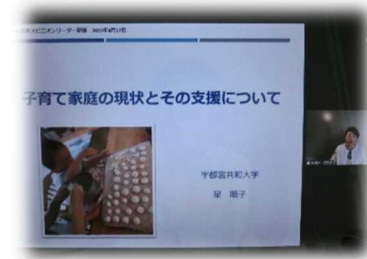


○ オリエンテーション（自己紹介等）

今後の研修についての説明を受けるとともに、各教育事務所の家庭教育担当職員を含む参加者全員が自己紹介を行いました。終始和やかな雰囲気の中で、受講者はそれぞれが研修へ参加した理由や意気込みなどについても話しました。今後の研修を共にする仲間として、相互理解を深めるきっかけとなった様子でした。

○ 講話「子育て家庭の現状とその支援に向けて」宇都宮共和大学子ども生活学部 准教授 星 順子 氏

まず初めに、家庭教育支援に携わる「オピニオンリーダー」を養成する本研修に参加した理由を振り返る個人ワークを行いました。活動に取り組む動機や心構えをはっきりさせておくことで、その活動をより有意義なものにできるとの話がありました。続いて、現在の子育て家庭の現状として、現在表面化している主な課題（困難さ）と実態、その背景にある様々な要素についての説明がありました。特にコロナ禍に着目し、多くの問題が生じていることを確認しました。そして最後に、家庭教育支援の場で大切にしていきたいこととして、大きく5つのポイント（子どもの最善の利益実現を考える・保護者の力を信じ引き出す・対人援助の作法を身に付ける・社会の変化に対応する・多様性を大切にする）につ



いて説明がありました。

グループごとの振り返りにおける発言やアンケートからは、講話を通して受講者自身が家庭教育支援に携わるために高めるべき知識や技能を明らかにし、今後取り組んでいきたい活動のイメージを思い描くことができたようでした。



☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・家庭教育支援の難しさと必要性を感じました。また、驕らず、親の心に寄り添うスキルを学んで行かなければと思います。
- ・家庭教育オピニオンリーダーについての理解が深まりました。星先生の講話から、コロナウイルスの拡大により、家庭教育への支援が更に必要になってきていると感じました。
- ・星先生のお話はとても実体験に基づいており、聴きながら何度も頷きました。特に、活動を始める理由を掘り下げることの大切さについては、自分は想いだけで走ってしまうタイプなので、なるほど、そこが足りなかったのか！と勉強になりました。
- ・「子どもの最善の利益の実現を考える」「保護者の力を信じる 引き出す」について、あらためて気付かされました。押しつけではなく、保護者や子どもにとって一番必要なところを支えることができたらいいなと思いました。
- ・コロナ禍でも研修ができ学べることや、子供が夏休みでも在宅のまま Zoom で学べること、すごくありがたかったです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp